



JIC インフォメーション

第 173 号 2012 年 11 月 10 日

年 4 回 1・4・7・11 月の 10 日発行

1 部 500 円

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

<http://www.jic-web.co.jp>

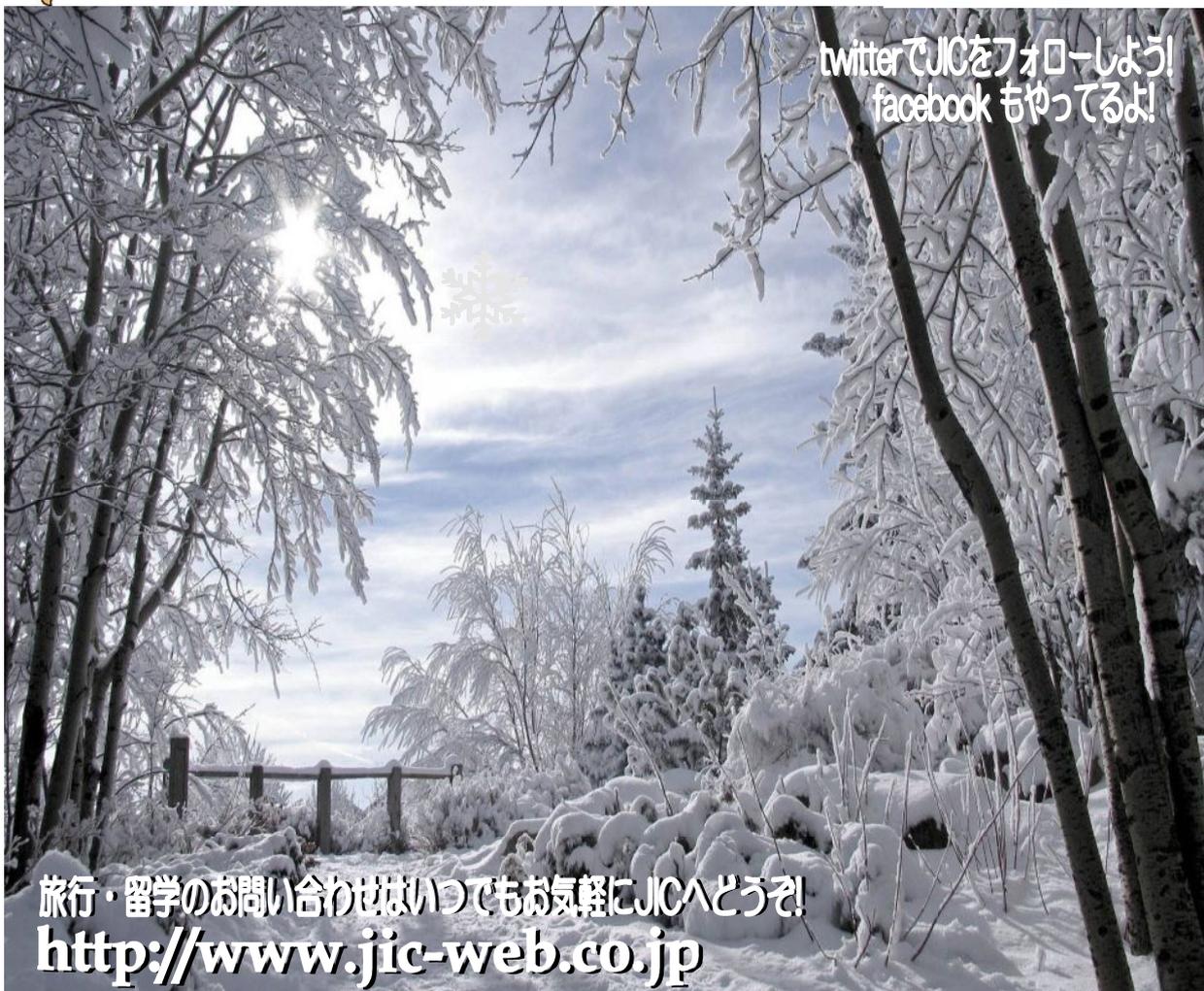
東京オフィス: 〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル 7F TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪・ロシア留学デスク: 〒540-0032 大阪市中央区天満橋京町 2-13 ワキタ天満橋ビル 812 号 TEL: 06-6944-2341

ロシア・旧ソ連
国際交流誌



今年の冬はロシアへ行こう!!



twitterでJICをフォローしよう!
facebookもやってるよ!

旅行・留学のお問い合わせはいつでもお気軽にJICへどうぞ!
<http://www.jic-web.co.jp>

— ロシアの冬 —

日本の市民のアピール	「まちを歩いてみれば」 トカチェンコ・ドミトリー12-14P
「領土問題」の悪循環を止めよう! 2-3P	モスクワ近郊の古都、コロムナ
キーロフ十字架行進(3)「泥濘(ぬかるみ)の道」	北の町アルハンゲリスクのメゼーニ絵柄
伏田 昌義 4-7P	エストニア第二の都市、タルトゥの玩具博物館
<連載>「エクメネの最果てへ」—サハ共和国 冬の旅—	JICモスクワ通信 ウクライナのジブリトンネル
岡本 健裕 8-11P	チステイーリナ・イリーナ 15P
「松山~100年前の日露ロマンス」 11P	

JICでは、「Jクラブ(JIC友の会)会員を募集しています。
年4回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

■領土問題についての市民アピール

尖閣諸島(中国名;釣魚島)、竹島(韓国名;独島)をめぐる、日中関係、日韓関係が激しく揺らいでいます。「領土問題」を契機とした中国や韓国の反発は、長年にわたって培われてきた良好な関係を打ち壊し、それぞれの国で偏狭なナショナリズムを暴走させかねない危険性を高めています。前号(9月25日臨時号)の編集後記で「歴史的事実を踏まえた冷静な議論と平和的な対話は何よりも求められます」と書きました。以下は、大江健三郎氏、市川房江氏、坂本義和氏をはじめ 1270 名の賛同者が 9 月 28 日に発した市民アピールです。冷静な議論のための素材として、是非、ご一読いただきたいと思います。

「領土問題」の悪循環を止めよう!

～日本の市民のアピール～

2012 年 9 月 28 日

1. 「尖閣」「竹島」をめぐる、一連の問題が起き、日本周辺で緊張が高まっている。2009 年に東アジア重視と対等な日米関係を打ち出した民主党政権の誕生、また 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の後、日本に同情と共感を寄せ、被災地に温家宝、李明博両首脳が入り、被災者を励ましたことなどを思い起こせば、現在の状況はまことに残念であり、悲しむべき事態であるといわざるを得ない。韓国、中国ともに日本にとって重要な友邦であり、ともに地域で平和と繁栄を築いていくパートナーである。経済的にも切っても切れない関係が築かれており、将来その関係の重要性は増していくことはあれ、減じることはありえない。私たち日本の市民は、現状を深く憂慮し、以下のように声明する。

2. 現在の問題は「領土」をめぐる葛藤といわれるが、双方とも「歴史」(近代における日本のアジア侵略の歴史)問題を背景にしていることを忘れるわけにいかない。李大統領の竹島(独島)訪問は、その背景に「従軍慰安婦」問題がある。昨年夏に韓国の憲法裁判所が出された判決に基づいて、昨年末、京都での首脳会談で李大統領が「従軍慰安婦」問題についての協議をもちかけたにもかかわらず、野田首相が正面から応えようとしなかったことが要因といわれる。李大統領は竹島(独島)訪問後の 8 月 15 日の光復節演説でも、日本に対し「従軍慰安婦」問題の「責任ある措置」を求めている。

日本の竹島(独島)領有は日露戦争中の 1905 年 2 月、韓国(当時大韓帝国)の植民地化を進め、すでに外交権

も奪いつつあった中でのものであった。韓国民にとっては、単なる「島」ではなく、侵略と植民地支配の起点であり、その象徴である。そのことを日本人は理解しなければならない。

また尖閣諸島(「釣魚島」=中国名・「釣魚台」=台湾名)も日清戦争の帰趨が見えた 1895 年 1 月に日本領土に組み入れられ、その 3 カ月後の下関条約で台湾、澎湖島が日本の植民地となった。いずれも、韓国、中国(当時清)が、もっとも弱く、外交的主張が不可能であった中での領有であった。

3. 日中関係でいえば、今年が国交正常化 40 年であり、多くの友好行事が計画・準備されていた。友好を紛争に転じた原因は、石原都知事の尖閣購入宣言とそれを契機とした日本政府の国有化方針にある。これは、中国にとってみると、国交正常化以来の、領土問題を「棚上げする」という暗黙の「合意」に違反した、いわば「挑発」と映っても不思議ではない。この都知事の行動への日本国内の批判は弱かったといわざるを得ない。(なお、野田政権が国有化方針を発表したのは 7 月 7 日であった。この日は、日本が中国侵略を本格化した盧溝橋事件(1937 年)の日であり、中国では「7. 7 事変」と呼び、人々が決して忘れることのできない日付であることを想起すべきである)

4. 領土問題はどの国のナショナリズムをも揺り動かす。国内の矛盾のはけ口として、権力者によって利用されるのはそのためである。一方の行動が、他方の行動を誘発し、それが次々にエスカレートして、やがて武力衝突などコントロール不能な事態に発展する危険性も否定できない。私たちはいかなる暴力の行使にも反対し、平和的な対話による問題の解決を主張する。それぞれの国の政治とメディアは、自国のナショナリズムを抑制し、冷静に対処する



責任がある。悪循環に陥りつつあるときこそ、それを止め、歴史を振り返り、冷静さを呼びかけるメディアの役割は、いよいよ重要になる。

5. 「領土」に関しては、「協議」「対話」を行なう以外にない。そのために、日本は「(尖閣諸島に)領土問題は存在しない」といった虚構の認識を改めるべきである。誰の目にも、「領土問題」「領土紛争」は存在している。この存在を認めなければ協議、交渉に入ることもできない。また「固有の領土」という概念も、いずれの側にとっても、本来ありえない概念といわなければならない。

6. 少なくとも協議、交渉の間は、現状は維持されるべきであり、互いに挑発的な行動を抑制することが必要である。この問題にかかわる基本的なルール、行動規範を作るべきである。台湾の馬英九総統は、8 月 5 日、「東シナ海平和イニシアティブ」を発表した。自らを抑制して対立をエスカレートしない、争いを棚上げして、対話のチャンネルを放棄しない、コンセンサスを求め、東シナ海における行動基準を定める——など、きわめて冷静で合理的な提案である。こうした声をもっと広げ、強めるべきである。

7. 尖閣諸島とその周辺海域は、古来、台湾と沖縄など周辺漁民たちが漁をし、交流してきた生活の場であり、生産の海である。台湾と沖縄の漁民たちは、尖閣諸島が国家間の争いの焦点になることを望んでいない。私たちは、これら生活者の声を尊重すべきである。

8. 日本は、自らの歴史問題(近代における近隣諸国への侵略)について認識し、反省し、それを誠実に表明することが何より重要である。これまで近隣諸国との間で結ばれた「日中共同声明」(1972)「日中平和友好条約」(1978)、あるいは「日韓パートナーシップ宣言」(1998)、「日朝平壤宣言」(2002)などを尊重し、また歴史認識をめぐって自ら発した「河野官房長官談話」(1993)「村山首相談話」(1995)「菅首相談話」(2010)などを再確認し、近隣との和解、友好、協力に向けた方向をより深めていく姿勢を示すべきである。また日韓、日中の政府間、あるいは民間で行われた歴史共同研究の成果や、日韓関係については、1910 年の「韓国併合条約」の無効を訴えた「日韓知識人共同声明」(2010)も、改めて確認される必要がある。

9. こうした争いのある「領土」周辺の資源については、共同開発、共同利用以外にはありえない。主権は分割出来ないが、漁業を含む資源については共同で開発し管理し分配することが出来る。主権をめぐって衝突するのではなく、資源を分かち合い、利益を共有するための対話、協

議をすべきである。私たちは、領土ナショナリズムを引き起こす紛争の種を、地域協力の核に転じなければならない。

10. こうした近隣諸国との葛藤を口実にした日米安保の強化、新垂直離着陸輸送機オスプレイ配備など、沖縄へのさらなる負担の増加をすべきでない。

11. 最後に、私たちは「領土」をめぐり、政府間だけでなく、日・中・韓・沖・台の民間レベルで、互いに誠意と信義を重んじる未来志向の対話の仕組みを作ることを提案する。

(以下署名)

ジェーアイシー JIC おすすめの電子書籍

●観光ロシア語

著者:さとう 好明



「観光ロシア語」(DL-MARKET、900 円)

ロシア語ガイドをめざす方、ビジネスやそれ以外でロシア人にロシア語で観光案内をしたい方向けの観光ロシア語の入門書です。内容は観光案内でよく使われるロシア語構文、会話例、和露形式の語彙 721 で、ロシア人への観光案内のみならず、一般向けのロシア語会話参考書としても使えるように工夫されています。(DL-MARKET より引用)

●ロシア奇譚

著者:さとう 好明



電子書籍「ロシア奇譚」(DL-MARKET、定価 700 円)

現代ロシアの犯罪エリート最高階層であるヴォール・ヴ・ザコーニエ略史、怪僧ラスプーチンの他にも、日本であまり知られていないロシアの女傑、奇人、変人、鬼才、奇才について書いてみました。2009 年のロシア異聞(ユーラシアブックレット No. 145、東洋書店)の続編です。知られざるロシアにご興味ある方向け。(DL-MARKET より引用)

さとう好明さん著書の電子書籍をチェックしたい方はこちらへ!!!

http://www.dlmarket.jp/manufacturer.php/manufacture_rs_id/8128

購入希望者は DL-MARKET に今すぐアクセス!!!

<http://www.dlmarket.jp/>



キーロフ十字架行進(3)

泥濘(ぬかるみ)の道

伏田昌義

2日目 6月4日

リュドミラさんの予言は当たった。

6月4日の朝は午前2時半に起床した。窓の外では野外テントをたたんで出発準備をする人たちがあわただしく動き回っている。前日の夕方から降り始めた雨は夜半にあがったようだが、足元は十分に濡れており、道のあちこちに大きな水たまりができています。これは歩きにくそうだ。はるばる日本から持ってきたゴム長靴を袋から取り出す。

狭いキッチンで順番に朝食をとり、出発準備を整えてアパートの外に出た。ダニ除けスプレーを互いにかけてあい、ジーマ一家が降りてくるのを待つ。大人はまだしも、まだ小さいニキータやイリヤ君には、この早立ちは辛かろう。寝ぼけ眼をこすりながら降りてくる。全員が揃って、ボービノ村を出発した時には4時になっていた。行進先頭の出発時間は3時だが、この時間になってもまだたくさんの方が歩いている。

村はずれを過ぎるまで、道端の林の下の草むらには、マットを敷いた凹みがあちこち残っている。ボービノは小さな村だ。そこで約3万人が一夜を明かしたのだから、雨の野外で横になった人の方が多かったに違いない。あらためてこの十字架行進の過酷さを思う。

泥濘(ぬかるみ)の道

前日はかなりの部分が簡易舗装の道路だったが、この日は最初からまったくの地道だ。白樺林がまばらに点在



泥濘(ぬかるみ)の道

する平原のなかの道を、泥濘に足を取られながら、大きな水たまりを避けつつ歩く。夥しい人が次々と歩くので、地道はますます柔らかく、

泥だらけになっていく。跳ね上げる泥が靴やズボンを汚す。泥道をさけるために路肩の草を踏む人が増え、路肩がどんどん横に広がっていく。40~50cmに伸びた細長い草の葉がベッタリと踏みしだかれ、泥水と混じりあって、無残な姿をさらしている。まさに人が歩いた後に道ができる状態だ。この泥濘は、まるで混沌としたロシアそのものようだ。

ゴム長靴は、足元が濡れなくていいが、シューズに比べるとかなり歩きにくい。少し大きめの長靴を買ってしまったので、足が靴の中で滑ってよけいに歩きにくい。リュドミラさんとは見ると、「長靴は必須」と言っていたはずなのに、ゴム長ではない。くるぶしまで隠れる大きめの野外用シューズを履いている。

「ゴム長は歩きにくいから、私はこれにした」。

やられた。セルゲイ氏もジーマ氏もやはり同じようなシューズ姿だ。足元は多少濡れても、歩きやすさはゴム長よりずっと上だ。ゴム長を履いたのは失敗かもしれないと思いつつ、足をひきずるようにして泥濘の道を歩き続けた。



いたる所に水たまり、森の中の道

森の中は大渋滞

途中、30分程度の休憩を一度とり、7時前に大きな森の前に着いた。それまでは好き勝手に横10列くらいに広がって平原の道を歩いていたのだが、森の入口で急に道が狭まり、人だまりができています。

入口の人だまりから中に踏み込むと、森の道は大渋滞だ。まるでラッシュアワーの新宿駅のホーム状態。2、3歩行っただけで止まり、また2、3歩行っただけで止まる、ノロノロ歩きの繰り返し。前も後ろもリュックを背負った人で埋まり、前方の様子がサッパリ見えない。リュドミラさんたちとはぐれないように、何回も位置を確認する。しばらく歩くうちにようやく事情がわかってきた。

森の中も5~6列で歩ける程度の道幅なのだが、あちこちに道いっぱい広がる水たまりができており、そこを通

過するときは道の片側か両端を 1 列か 2 列にならないと通れないのだ。大きな水たまりにぶつかるたびに立ち止まり、譲り合いつつ、足の踏み場を慎重に探り、道端を迂回していく。それでも泥濘は容赦なく足にまとわりついてくる。スピードがガクンと落ちて渋滞になるわけだ。やっぱり今日はゴム長靴を履いて正解だった。



歩いたあとが道になる

中には長靴や裸足で水たまりのなかを勇ましく進んでいく人もいるが、泥濘の深さは半端ではない。泥だらけになりたくなければ、歩調を合わせてゆっくり迂回していくしかない。可哀想なのは、ベビィバギィに子供を乗せて押す人だ。車輪に泥が絡まり、一向に前に進まない。手押し車を二人がかりで抱え上げ、大汗をかきながら運ぶ人もいる。何故こんなに難渋しながら、それでも歩くのか。不思議な気分が襲われるが、自分もその中の 1 人なのだ。「何故？」と聞かれても答えはすぐには出てこない。出てこないが、しかし、自分も確かに歩いている。

「ママ、カーチャ！」

森の中でリュドミラさんが小学生くらいの女の子を見つけた。母親とはぐれてしまったらしい。ベソをかきながら歩いている。

「名前は？」とリュドミラさん。

「カーチャ、…」、か細い小さな声。

「ママ、カーチャ！」(カーチャのママはドコ?!)

リュドミラさんが大声で行進の前後に呼びかける。声を聞いた人が「ママ、カーチャ！」と繰り返し、伝言ゲームを始める。しばらくして後ろの方で「私、カーチャの母だけど？」と声がある。しかし、現れたのはかなり年配のおばさん。小学生のカーチャのママではない。カーチャ(エカテリーナ)という名の女の子はいくらでもいる。ロシアではとてもポピュラーな名前なのだ。

カーチャの母親は前を歩いているのか、後ろを歩いているのか、なかなか現れない。手をつなぎ、「大丈夫だよ。きっと見つかるよ」と励ましながらかき続けるリュドミラさん。突然、カーチャの背中の中にある小さなリュックの中で携帯電話が鳴りだした。母親からの電話に違いない。カーチャが電話を取り出すのに手間取っている間に呼び出し音は途絶え

た。落胆するカーチャ。再び鳴りだす。今度は繋がった。リュドミラさんが状況を説明する。やがて前方から目にいっぱい涙をためた大柄の母親が現れて、小さなカーチャの手をしっかりと握りしめた。

野外トイレ

森の中を通り抜けるのに 1 時間半かかった。距離にすれば 4 キロ程度だろうが、感覚としてはその倍くらい歩いた気分だ。森を抜け出た先の草原でこの日 2 回目の休憩をとる。マットを敷き、倒れこむようにして横になる。30 分ほど横になり、甘い物を口に入れてようやく心地がかった。

元気になるともよおしてきた。草をかき分け、白樺の林に向かう。自然と男性が分け入る方角と、女性が分け入る方角は反対方向になっている。木陰で放尿をすませてあたりを見渡すと、林の中のあちこちに白いものが散らばっているのが目に入ってきた。それは夥しいティッシュの山。そう、森の中はウンコだらけだったのだ。人間も動物の一



森を抜けてひと休み。とにかく寝る。

種なのだから食べなければ生きられない。食べれば当然、排泄物が出る。当たり前の話だと納得しつつも、白樺林から早々に退散した。

天気が回復し、雲間から太陽が顔を出した。ジーマ氏にこのあ

との道の様子を尋ねる。もう水たまりはあまりないとのこと。ゴム長靴をしまい、シューズに履き替える。慣れぬゴム長で無理して歩いたので左足に豆ができたようだ。かなり痛む。まだ今日の行程は三分の一も歩いていない。

ザガリエ村からモナステスコエ村へ

平原のでこぼこ道を 30 分ほど行くと、ようやく簡易舗装の道に出た。空をおおっていた灰色の雲は消えて、空が晴れ渡り、汗ばむほどの陽気になった。上着を脱いで半袖になる。

11 時過ぎにザガリエ村に着いた。古い崩れかけた教会跡がある村だ。ここにもジーマ氏の知り合いの家があり、昼食をごちそうになる。朝早く出発したのでおなかがペコペコだ。細切れに刻んだ野菜に自家製のクワスをかけて作

った冷スープがおいしい。食事のあと、「バーニヤにはいれ」と家の女主人がしきりに勧めてくれたが、「それよりも睡眠」と、家の戸口のテラスで日光浴をしながら昼寝することにする。ポカポカと暖かい日差しを浴びて 1 時間ほど熟睡し、すっかり元気を回復した。

13 時 40 分にザガリエ村を出発し 1 時間ほど歩いて再び休憩。近くに停まった警備の車がアナウンスをしている。「本日はここまで約 19 キロ歩きました。残りは 21 キロです！」

2 日目の行程は約 40 キロだから、10 時間以上かかってまだ半分しか来ていない。ザガリエ村を出てから、3 回の休憩を繰り返し、その日の目的地であるモナスティスコエ村に着いたのは夜の 10 時だった。朝 4 時から何と 18 時間！歩く時間とほぼ同じ長さの休憩をとっているので実質歩行時間は 9 時間半程度だが、それにしてもこれはきつい。ジーマ・チームは友人宅に泊まり、私たちは「村一番」というホテルに落ち着いた。ホテルとはいえ普通の民家。3つか4つの部屋と小さなキッチン、庭にバーニヤ小屋があるだけだ。食事は自炊。インスタント食品で夕食をとって、早々に眠りについた。与えられた部屋は 5 人一室。前夜と同じ寝袋での雑魚寝だった。

3 日目 6 月 5 日

突然の異変

朝 2:30 起床。睡眠時間は 3 時間半。朝食後、ジーマ・チームと合流し、3:50 に出発。少し寒い、清涼な朝の空気が心地よい。道は簡易舗装で前日よりずっと歩きやすい。背中の荷物の重さにも体が慣れ、快調に歩き始めた。

ところが 30 分もしないうちに、体に異変が起きた。腕、太もも、首筋、頭、体のあちこちが痒い。虫に咬まれたのか？ ポリポリと掻きかけて気がついた。これは年に 1、2 度襲ってくる蕁麻疹の初期症状だ。原因はわからない。しかし、もう 10 年以上も続く私の「持病」だ。ここで痒いところを掻くと、掻いた分だけ痒みが広がり、よけいに耐えがなくなる。腕を見るとさっき掻いた部分がポコポコと腫れあがり赤黒く変色しはじめている。1 時間も我慢すれば痒みがひくことは経験上わかっている。時々腕や頭を掻きむしりたくなるのをじっと我慢して、歩き続ける。

長い坂道を登る途中で今度は足元がふらつき始めた。何か変だ。頭と体にスーと冷たいものが走り、立ちくらみしそうになる。蕁麻疹を我慢するあまり貧血症状を起こしたようだ。道端に立ち止まり、頭を低く下げてしばし休む。歩いては再び休む。幸いみんなから少し離れているのでまだ気付かれていないが、これは困った。「最後まで歩けるだろうか」。ここでリタイアしたら、唯一の日本人参加者として

は不名誉のそりしは免れない。不安を隠しつつ、ペースを落としてゆっくりと歩き続けた。(あとで振り返ってみれば、貧血の原因は、毎日 1 回飲んでいる血圧降下薬を間違えて 2 回飲んでしまったためだった。血圧が下がり過ぎたのだ)。

グロホフ村の教会と「聖母の泉」

5:30 に最初の休憩(約 30 分)。ようやく蕁麻疹も貧血もおさまってきた。6:00 再出発。ジーマ氏が平原の遙か遠くに見える白い建物を指差し、「あれが今日の昼に通過するグロホフ村の教会だ」と教えてくれる。まだ 10 キロはあるだろうか。先は長い。

ジーマ氏の説明は続く。「グロホフ村はかつて大きな村だった。グロフはロシア語で豆の意味、豆が実る豊かな村だったと伝えられる。1930 年代、スターリンの共産主義政権にロシア正教が激しく弾圧された時代に、教会の建物は倉庫に変えられ、鐘楼だけが残された。以来、病気の流行や農業の不振で村はすっかり寂れてしまった。教会の壁に描かれた聖像画はペンキで塗りつぶされたが、不思議なことにしばらくすると塗料が剥げ落ち、再び聖像画が現れた。その度に当局は聖像画を塗りつぶしたが、聖像画を完全に消し去ることはできなかった。ソ連崩壊後に人々が寄金を集めて教会を再建した。教会の裏手には「聖母の泉」と呼ばれる泉が湧き、その泉で沐浴すると万病に効くと言われる。キエフ行進の重要な中継ポイントとなっている。」

グロホフ村には 9 時過ぎに到着した。教会で長い儀式が行われるので 3 時間以上の休憩時間がある。木陰で 2 時間ほど眠って睡眠不足を補い、11 時過ぎに昼食の支度を始めたところで、にわか雨が降ってきた。雨具をかぶり、立ったままカーシャ、味噌汁、パンなどを口に押し込んだ。

12:00 になると教会の鐘が鳴り響き、行進の先頭が十字



美しく修復されたグロホフ村の教会

エクメネの最果てへ

—サハ共和国 冬の旅—

【第13回】岡本 健裕

オーロラ！エキゾチックですね。オーロラ！カッコいいですね。オーロラ！憧れますね。

とうとうヴェルホヤンスクにオーロラが出ました。話の盛り上がり都合上、今まで黙っていましたが、実はここ、オーロラが出る町なのです。

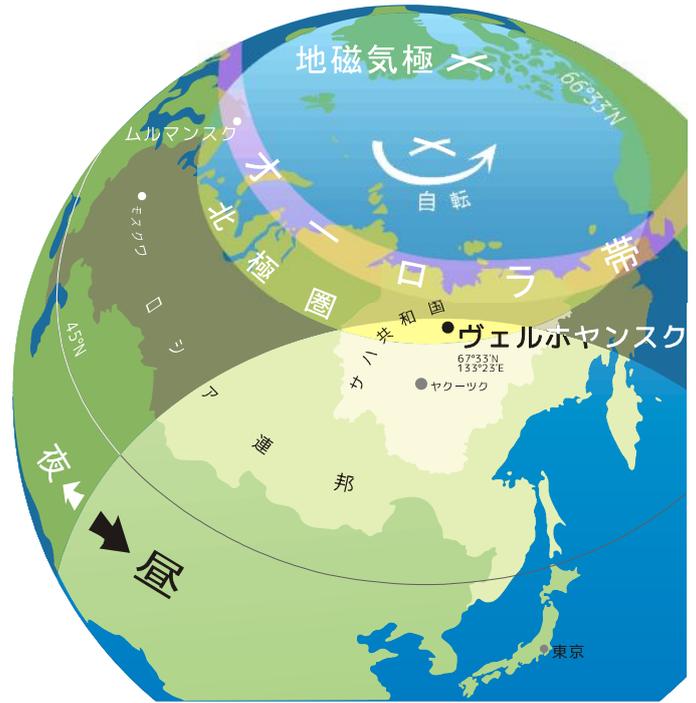
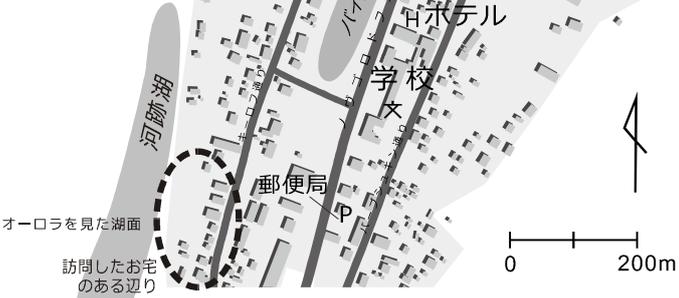
みなさん、オーロラがどうして現れるかご存知ですか。もしかして、オーロラは寒いから出てくるんだ、なんて思っていますか。オーロラはですね、太陽の磁気と地球の磁気がバッチリの条件で出会ったところに、なんやかんやの作用が働いて現れるのです。

…今ちょっとごまかしましたが、とにかく、オーロラの出現と気温は関係がないんですね。私が訪れている北半球の寒極(の一つ)、ヴェルホヤンスクにはオーロラが出ますが、それはここが寒い町だから、ではありません。

オーロラ帯というものをご存知でしょうか。オーロラ帯とは地磁気極を中心とした半径 2,500km くらいのドーナツ状の地帯で、まさにこの辺りの上空が、地球で最もオーロラの現れやすいところ、とされています。なぜかと言えば、それは先ほどの磁気のなんやかんやの加減でそうなっているので、メカニズムを深く知りたい方は調べてみてください。とにかく、オーロラ帯上空では、なんと年間 200 日ほどオーロラが出るって言われているんです。単純な話、2 晩以上滞在すれば、1 回くらいはオーロラが見られることになります。

日本人相手の、よくあるオーロラ観賞ツアーは、フィンランドとかカナダとかアラスカだとかを行き先にして販売されていますが、あれはみんなオーロラ帯にあるんですね。確

ヴェルホヤンスク 中心市街図



かに全部寒いところですが、それは、たまたまです。

さっき、オーロラ帯は地磁気極を中心としたドーナツ状と言いました。地磁気極は、地球を巨大な磁石とみたときの極の位置であって、地球の自転軸の極点とは一致していません。どこにあるかという、カナダの北部です。ということは、北米大陸であれば比較的の低緯度でもオーロラが観察しやすいわけです。一方、その裏側にあたるユーラシア大陸では、かなり高緯度でないと、オーロラが出現する条件はよくなる、ということになります。実際、カナダの名所イエローナイフは北緯 62 度ですが、ノルウェーのトロムソになると北緯 69 度と、だいぶ北になります。

ヴェルホヤンスクの位置する東経 133 度付近ではオーロラ帯は北緯 70 度から 80 度付近にあるようです。ヴェルホヤンスクは北緯 67 度にある町なので、オーロラ帯からは結構南に外れています。だから年間 200 日は無理ですが、でも一週間くらい待っていれば、いっぺんくらいはオーロラが出現しないこともない。ヴェルホヤンスクは、まあそんな感じの位置です。

ふー、そろそろ前置きもやめにしましょう。前回の連載で、私たちは一般家庭に招かれて夕食をいただいていたところ。途中、オオノさんが外のお手洗いに出かけたら空が光っていることに気がついたのです。

発光の正体を確かめようと、私とサルダナさんも外に出てみました。そうしたら出ていたのです、北の空に長々と。それは紛れもない、緑色をした帯状の、静かなオーロラでした。

でもちょっと、出ている位置が低いですね。周囲の家並みが視界を遮っています。もっとよく見えるところはないかと周囲を見やれば、好都合なことに、住宅の裏手が広大な



地平線近くに出たオーロラ



少し高く上った

細長い空き地になっています。後で気付いたのですが、ここはヤーナ川の旧河道に無数にある河跡湖のひとつでした。凍結した湖面に薄く雪が被って、空き地のように見えていたのです。どこかで聞いたような話…と思った方は鋭い！ヴェルホヤンスクのど真ん中にある「バイカル湖」と同じ地形です(連載第 11 回参照)。

湖面に降りてみました。広い空、暗い大地、私たちはその隙間にもぐり込んできました。なかなかいい環境。オーロラは相変わらず、北の方角の低いところに、のびのびと横たわっています。よく見ていると、だんだん光が強くなってきました。形もちょっとずつ変わっています。

オーロラは、天球を走るんです。それもいきなり、思い切って離れたところへサラサラと。一度これを見てしまったら、オーロラはあなたの心に住みつきます。オーロラの魅力の大部分は、光ることよりも、その動きにあるのです。

ヴェルホヤンスクはちょっとオーロラ帯から離れているせいかな、オーロラが真上まで来ません。心なしか、動きものんびりしている気がします。もっと大胆な動きが見たいなあ。

というのも私は以前、ロシア北極圏の都市、ムルマンスクでもオーロラを見たことがあって、それと比較しての話なの

です。ムルマンスクはまさにオーロラ帯にある町で、だからなのか、ほとんど天頂近くにオーロラが出るんですね。そしてこれがよく動く。それは思いがけない衝撃でした。自由に遊ぶには広すぎるはずの天上界を、音もなく縦横無尽に駆け回ってみせる光るモノ。奇怪と言うほかないのです。幻想的だとか、ロマンチックだとか、色々表現されていますが、そんなイメージはいっぺんに吹き飛びました。オーロラが古くから凶兆とされてきた理由がよくわかります。本能です。動くオーロラってやつは、人が長年かけて体得した距離と速度の感覚にやすやすと侵入してきて、チューニングを勝手にいじくりまわすのです。従来、頼りにしてきた視覚のモノサシを完全に狂わせる現象に直面したら、まずやってくるのは大抵、不安か、恐怖です。

今、ヴェルホヤンスクで見ているオーロラはそこまでのショックをもたらしてきません。穏やかなのです。でも光は、かえって力強いような気がします。今日のはたまたまこうなんでしょうか。冷たい緑色の夕焼けか、あるいは色付きの天の川か…例えても仕方ないですね。おとなしく感動していればいいのです。

「私はオーロラを初めて見ました。」

意外なことをサルダナさんが言いました。

「だから、このお仕事をくださって感謝しています。」

サハ共和国で生まれ育ったサルダナさんでさえも、オーロラを見たことがないって、ちょっと不思議な気がします。でも確かに、サハ共和国で、オーロラが見られるのは北の方だけ。首都ヤクーツクでも、もうひとつの寒極のオイミヤコンでも、ふつうはオーロラが出ないのです。日本の 8 倍の面積に 100 万人しか住んでいないサハ共和国なのに、とりわけ北半分は人口が希薄です。となれば、オーロラを見たことがある人の方が珍しいのが実態なのかもしれません。

ところで今回の連載ではやたらにオーロラオーロラ言ってますが、ロシア語でオーロラはパリヤールナエ シヤーニエと言います。パリヤールナエ(полярное) = 極の、シヤーニエ(сияние) = 光、すなわち極光です。えっ、じゃあ、サンクトペテルブルグにある巡洋艦オーロラ号は、ロシア語ではパリヤールナエ シヤーニエ号だったの？バレイの『眠れる森の美女』(※1)のヒロインの名前はまさか、パリヤールナエ シヤーニエ姫？と思った方、ご心配なく。それはどちらもアヴローラ(Аврора)、つまりオーロラです。こんがらがってききましたか。要するにロシアでは、ローマ神話の曙の女神に由来するアヴローラ(アヴローラ、オーロラ)という名前が、極光(オーロラ)の名称にまではならなかった、ということです。私はロシア語を学ぶまでずっと、眠れる森の美女のオーロラ姫は極地の空に舞う光からついた名前だとばかり思っていました。一度染み込んだイメージはなかなか落とせないもので、今でもチャイコフスキ



かなり形が変わった.



拡大するとこんな感じ

一の例のワルツを耳にすると、極光の方のオーロラを思い浮かべてしまうのは、どうしようもありません。でも、バレエというスティックな芸術には、物言わぬ極光の方のオーロラも、それなりに似合っていると思うのですが、どうでしょう。

ロシアの映画監督アレクサンドル・ソクーロフの作品に、なんと、恐れ多くも、昭和天皇陛下を主人公にした『太陽』(※2)という映画があります。娯楽映画ではありません。主演のイッセー尾形の演技の素晴らしさに驚き、日本語の台本の完璧さに溜め息をつき、さらに無教養で軽薄な米兵の描かれ方に溜飲を下げる、そんな芸術作品です。これは疑いようもなく傑作で、傑作であるがゆえに、ロシア人にこれ程の水準の映画を作られてしまったことを日本人は悔しがらなければなりません。

で、何が言いたいかというと、その『太陽』の作中に出てくるのです。極光が。

昭和天皇が学者に質問しています。「今日はあなたと極光について話し合いたい。…私は一度も見たことがありません。私の祖父、明治天皇が、夜中に東京上空で不思議な光を見て、そのことを、大正天皇に話されたのです。」おそるおそる学者が答えます。「残念なことですが、それは、不可能なことだと思われまます。…東京の緯度では考えら

れません。…明治天皇は、優れた、偉大な、歌人であらせられた…偉大な歌人の靈感をもって、その光を、極光とお受け取りになられたのではと存じます。」それを聞いた昭和天皇は残念そうに学者を退がさせます。

ソクーロフがどういう意図でこのエピソードを作品に挿入したのかはわかりません。昭和天皇は自ら、その探究心で極光を見たいと思ったのか、あるいは、祖父の明治天皇が、科学では説明のつかない靈感に基づく体験を家族に語り伝えたはずはないと思いたかったのか…。俳優の落胆した演技を見ると、その両方のような気がします。現人神と人間の間を揺れる陛下の葛藤を描き出す、というこの映画のテーマに対し、神秘であり科学の対象でもある極光が、これ以上なく効果的に使われているように思うのです。

ヴェルホヤンスクに現れたオーロラは、素敵な贈り物です。それはエクメネとアネクメネの境目、人の領域と人智を超えたところとの間にこそ、ふさわしい装飾です。

さて、今回はちと脱線が過ぎますね。そもそも、私達は夕食をご馳走になり、町内の一般家庭へ招かれていたのでした。すみません。ちょっと中座のつもりがもう30分ほど経っています。お家へ戻りましょう。

このご家庭の娘さん、ちょうど就学年齢なんですが、よく聞いてみるとやっぱり！学校の講堂のステージで見事な舞踊を披露してくれたメンバーの一人でした。そして何と、その時の衣装を着てくれるというのです。ちょっとこれは期待しますね、興奮しますね。

おおっ、この茶色い衣装は、私が個人的にもっとも気に入ったトナカイの衣装(勝手な命名)ではないですか。このグループは踊りもすごくかわいらしかったんですよ。と、喜んでいたら、いくつか決めのポーズまでとってくれました。大サービスです。

やっぱりすごい町ですここは。これだけ手の込んだ衣装を多くの家庭がみな自前で用意できて、子ども達に本格的に舞踊を指導できる教育現場があって、教えを受けた子供達は、突然やってきた客人の前で物怖じせずに披露



ステージ衣装の娘さん

できるんです。どうしてこんなレベルの高い住民ばかりが、世界最寒の町に集まっているんでしょうね。

そろそろご家庭での楽しい時間も終わりです。アナトリーさんが迎えに来て、私達はウアズに乗り込みました。ホテルまでの短い道中、車内からフロントガラス越しに、切れっ端のような短いオーロラがくねくねと踊っているのが見えます。さっき

は出てなかったような、なかなかの躍動感あるオーロラです。

「ヴォート、シヤーニエー。(ほーら、オーロラ)」

アナトリーさんがそう言ってニヤリと笑います。ああもう、アナトリーさんのこの笑顔にはかないません。不安も恐怖もない、もちろん感動もない、生も死もオーロラも、全てが日常生活の繰り返しのようになんて軽くなってしまう、おまじないです。なんだかうきうきしてきました。あははー。今日一日の、大変いい締めくくりでした。明日こそは、寒い日になりますように。

残念なお知らせです。その明日というのは、ヴェルホヤンスクとお別れする日なのです。(つづく)

※1 P.I. チャイコフスキー 『眠れる森の美女』op. 66 (1889)

※2 A.N. ソクーロフ 『太陽』(2005) (原題 СОЛНЦЕ)

※写真はすべて北海道新聞の大能記者による撮影です

* * * * *

●ちょっといい話●

松山～100年前の日露ロマンス

10 ルーブル金貨に刻まれた2人の名前



2人の名前を刻んだコイン

それは2010年1月のこと。松山城の二の丸庭園の井戸跡で見つかったロシアの10ルーブル金貨に、ロシア人と日本人の名前が刻まれていることがわかった。2人は実在の人物で、コステンコ・ミハイル(Kostenko Mikhail)とタケバ・ナカ。コインにはペンダントにしたと思われる溶接の跡がついていた。

松山市の調査によると、タケバ・ナカは約100年前の日露戦争(1904-05年)当時、松山城内にあった陸軍病院に日本赤十字社の看護婦として勤めていた。ミハイル・コステンコは貴族出身のロシア人将校で、捕虜になり陸軍病院に入院していた。二人が実際にどんな関係にあったかはわからないが、コインに刻まれた二人の名前は、100年前のロマンスを十分に想像させる。

松山で6000人のロシア人捕虜が収容所生活を送った

日露戦争で戦場となった中国大陸から、当時、約7万人



きれいに清掃されたロシア兵墓地



捕虜の指揮官として松山で没したボイスマン大佐の墓石と胸像

のロシア兵捕虜が日本国内に送られ、全国29カ所で収容所暮らしをしていた。松山は日本で最初に収容所が作られた地で、延べ6000人の捕虜が収容された。当時、欧米先進諸国に追いつくために、文明国であることをアピールする必要があった日本政府は、捕虜を人道的に扱うこと

を定めたハーグ陸戦条約(1899年)を遵守し、ロシア兵捕虜に最大限の便宜を図り、比較的自由な生活を保障した。松山には傷病兵を治療する病院が建てられ、日本赤十字社の医師や看護婦たちが献身的な看護にあたった。将校は市内の自由散歩や民家での生活が認められ、郊外へのピクニックや道後温泉への入浴なども楽しんだ。松山市民は敵国であるロシアの兵士たちに礼節を持って温かく接し、盛んに交流した。

不幸にして松山で死去し本国に帰ることができなかったロシア兵捕虜たちは、松山城を正面に仰ぐ御幸寺山の墓地に葬られた。ロシア人墓地はきれいに整備され、現在も地元の市民や中学生たちの手で清掃活動が行われている。

ミュージカル「誓いのコイン」

金貨に刻まれた2つの名前にヒントを得て、一つのミュージカルが松山で作られた。「誓いのコイン」と名づけられたミュージカルは、日露戦争当時の史実を踏まえ、ロシア人兵士と日本人看護婦のラブロマンスに仕立てられ、2011年4月から今年3月まで、松山市内の「坊ちゃん劇場」で上演された。そして、小さな奇跡が起きた。公演初日に招待されたベールイ駐日ロシア大使(当時)が感激して日露両政府に働きかけ、ミュージカルのロシア訪問公演が実現したのだ。

ミュージカルは今年9月14日にモスクワのマーリュ劇場で、9月18日、19日にオレンブルグのドラマ劇場で上演された。(伏田)

ジーマの「まちを歩いてみれば」

トカチェンコ・ドミトリー

モスクワ近郊の古都、コロムナ

モスクワに1週間もいて、大都会の生活がうるさいなと感じたら、コロムナへ日帰りツアーに出かけてみてはどうでしょう。

コロムナは、古代ロシアの主要都市の一つで、900年の歴史を持つ古い町です。モスクワの南東部100キロほど離れたところにあり、モスクワから古都・リャザンまでのちょうど中間点にあたります。

コロメンスコエの故地

13世紀にタタール人が来寇したとき、コロムナ周辺が戦場となりました。戦闘でロシア側は敗北し、コロムナの住民の一部がモスクワ近くまで逃げて、コロメンスコエという村を創立したという伝説があります(ロシア語のコロメンスコエは、「コロムナ系」という意味)。今、コロメンスコエはモスクワの一部となっていますが、ユネスコ世界遺産に登録されたヴォズネセーニエ教会で知られています。

14世紀にモスクワ公国がその領土を拡張し始めたとき、コロムナは最初にモスクワ公国に組み入れられました。モスクワ川とオカ川の合流点に位置するコロムナは、15世紀には交易で栄え、モスクワ公国第二の都市になっていました。現在のコロムナは、モスクワ州の町のひとつです。

前置きはこれくらいにして、まずはコロムナに行ってみましょう。コロムナには何がありますでしょうか。

7つの塔を持つクレムリン

まずは、ロシアの古い町と同じく、コロムナにはクレムリンがあります。クレムリンは7つの塔と城壁の一部からなっています。もちろん、モスクワのクレムリンとは比べ物になりませんが、しかも一部しか残っていませんが、それでもコロムナの旧市街はとても



美しく見えます。クレムリンの塔のひとつは、マリンキナ・バーシニャ(マリーナの塔)と呼ばれています。偽ドミトリー1世の妻であったポーランド美人マリーナ・ムニーシェクがその塔に監禁されて亡くなったのですが、マリーナは鳥に変わって飛んでいったという伝説が残されています。

モスクワ川とオカ川が合流する岬に位置するゴルトピン修道院も面白い建築物です。ロシア・ゴシックの塔で囲まれた修道院は、昔の河川交通のランドマークとなっていました。

スポーツに興味がある方は、コロムナ・スピード・スケート・センターを訪問しましょう。2008年にこの地でスピード・スケートのヨーロッパ選手権大会が行われた際に新しく建設されたスポーツセンターです。

パステラ博物館

一番興味深いのはコロムナのパステラ博物館です。パステラ(пастила)とは、ロシアの伝統的なお菓子です。まさにコロムナで14世紀頃にこのお菓子がはじめて作られました。パステラは、甘酸っぱいリンゴやベリーの果肉のピューレ、蜂蜜(もしくは砂糖)、卵の白身、の3つの成分から作られます。これらをよく混ぜ合わせ、織物に敷いて、ペーチカにいれます(ロシア語で「敷く」という言葉は постилать「パステラーチ」といい、そこからパステラという名前がついたそうです)。そうして乾燥したらもう食べられます。

この伝統菓子はソ連時代にはほぼ失われていましたが、2009年からコロムナに博物館ができ、パステラ製造が復元されました。最初から最後まで手作りのパステラが購入できるのは、ここコロムナだけです。博物館は2つに分かれており、1カ所目で製造過程を見学し、2カ所目ではお茶を飲みながらいろいろな種類のパステラを味わうことができます。



北の町アルハンゲリスクのメゼーニ絵柄

9月にアルハンゲリスク(Архангельск)に行ってきました。

アルハンゲリスクはロシアのヨーロッパ部に属しているので、そんなに遠くないイメージですが、モスクワから1200キロ以上離れているので、なかなか頻繁には行けません。列車で24時間、飛行機だと約2時間かかります。

対ヨーロッパ貿易の港町として繁栄

町の名前は、昔この地に作られたミハイル大天使修道院にちなんでいます。ロシア語で、大天使は **архангел** (アルハンゲル)と言います。1553年にイギリスのエドワード6世は、インドへの北回り航路を探そうとして、3隻の船を北極海に送りました。そのうちの一つの船が、白海のセーベルナヤ・ドビナ川の河口に着きました。思いがけずインドではなくロシアに到着したことがわかり、船長はロシア皇帝と面会しました。当時のイワン雷帝は喜んでイギリスと貿易関係を結び、セーベルナヤ・ドビナ川の河口に新しい町を作るように命じました。

そのころ、バルト海の海岸はスウェーデン領で、黒海海岸はトルコ領でした。ロシアは北の白海・バレンツ海経由でしか貿易できなかつたため、17世紀にアルハンゲリスクは貿易の町として大いに栄えました。18世紀に入るとペテルブルグが創立され(1703年)、イギリスや西ヨーロッパとの貿易は、ペテルブルグからバルト海を経由するようになりました。そのためアルハンゲリスクの役割は減少しました。そうして、アルハンゲリスクをはじめとする北ロシアの諸都市は、ロシアの伝統文化の淵藪となっていきました。

メゼーニ絵柄の民芸品

とくに、ロシア正教で異端とされた古儀式派の人々は、迫害を避けるためにロシア中心部から北の森林地帯に逃れて、独特な芸術文化の担い手となりました。アルハンゲリスクを訪れて、私がとくに印象を受けたのは、木の絵付けです。昔の農民は、食器や糸車など木製の生活道具によく絵を描いていました。



馬や鹿が特徴のメゼーニ絵柄

アルハンゲリスク州には10種類以上の伝統的な絵柄があります。一番有名なのはメゼーニの絵柄です。メゼーニ(Мезень)とは、アルハンゲリスク州を流れる川と、その川の畔にある町の名前です。絵柄の特徴は、星、十字架、菱形などの枠内に馬と鹿が黒と赤で描かれていることです。昔は、糸車はすべての農家が持っていましたし、結婚するときに糸車をプレゼントする習慣もあったので、絵柄は美しく洗練されていきました。もちろん、メゼーニの絵柄は食器などにもつけられました。

現在は、誰も糸車を使わないので、メゼーニの絵付けは主にお土産用になっています。アルハンゲリスクでは、2カ所の工場でメゼーニ絵柄の民芸品が製造されています。古い絵柄の糸車は、郷土博物館で見ることができます。最



伝統的絵柄の民芸品

近では、メゼーニ絵柄にヒントを得た現代的なデザインも多く見られるようになりました。メゼーニ絵柄をはじめとするアルハンゲリスクの芸術作品を是非、見に来てください。

エストニア第二の都市、タルトゥの玩具博物館

エストニア第二の都市、タルトゥ(Tartu)を紹介します。

タルトゥは、エストニアの南東部、首都タリンから180キロくらいのところにあります。人口はわずか9万5000人。1030年にキエフ公国のヤロスラフ賢公が町を創立しました。最初の町の名前はユーリエフ(Юрьев)でした(ユーリはヤロスラフ公のロシア正教名)。

エストニアの歴史を刻む古都

1223年にドイツ人がこの地に侵入し、町の名前はドルパート(Dorpat)に変えられました。このドイツ語の名前は、元々その辺りにあったエストニア人の村タルバトゥ(tarvas=牛)から来ています。以来、この土地の支配者と国の名前は次々と変わりました。リヴォニア騎士団、ポーランド・リトアニア共和国、スウェーデン王国、ロシア帝国、エス

トニア、ソビエト連邦を経て、現在は 1991 年から独立したエストニア共和国の町になっています。

タルトゥで有名なのはタルトゥ大学です。スウェーデン王グスタフ2世により1632年に「アカデミア・グスタヴィアナ」として創立され、ウプサラ大学につぐ当時のスウェーデン第二の大学でした。ヨーロッパでも最も長い歴史を持つ大学の一つです。タリンと同じように、タルトゥには旧市街があり、役所の建物を中心に奇麗な歴史的建造物が並んでいます。快適な雰囲気のカフェも多いです。

必見は玩具博物館

中でも、タルトゥに行ったら絶対に訪問する価値があるのが、玩具博物館(Tartu Mänguasjamuseum)です。この博物館は、旧市街の古い木造の建物を使って、1994年に創立されました。エストニアのあらゆる歴史時代の玩具、フィン・ウゴル民族の伝統的な玩具、全世界の玩具が展示されています。常設展示の外に、アニメ展示室、遊戯室、工房があり、大人にも子供たちにも楽しく過ごせるよう



になっています。工房には、「気が利く玩具」、「自分の楽器」、「博物館オリエンテーション」、「魔法のテーブルクロス」など、子供たちの勉強に役立つコースがあります。

エストニアの有名人の幼い頃の顔写真と彼らが遊んだ玩具が展示されているコーナーもあります。別館には劇場があり、いろいろなイベントが開催されています。もちろん、お土産屋さんもあります。

タルトゥへの行き方はいくつかあります。エストニアの首都のタリンからバスか電車ではほぼ3時間、ロシアのプスコフからもバスで3時間ぐらいです。ペテルブルグからだと5時間、リガからは4時間かかります。

タルトゥ玩具博物館; 月火が休館日、開館時間 11:00~18:00、入場料4ユーロ URL; www.mm.ee

ロシア留学・語学研修の相談窓口

「JIC 大阪・ロシア留学デスク」

〒540-0032

大阪市中央区天満橋京町2-13 ワキタ天満橋ビル812号

TEL:06-6944-2341 FAX:06-6944-2318

業務時間: 平日 10:00-15:00 土・日・祝日休業

※業務時間内でも不在となることがありますので、来社の際は必ず事前予約をお願いします。



JICインフォメーションでは みなさまからの投稿記事を募集しています!

ロシア・旧ソ連渡航記、旅行での体験談、面白エピソード等、
旅のジャンル、季節は問いません

ロシア・旧ソ連にまつわる記事を募集しています!!

- 募集要項: Word 文書にて、題名・氏名・本文を明記し下記メールアドレスに送信して下さい。
- 字数: 本文 1700 文字前後
- 写真: メールに添付(2 枚程度)
- 件名: 「JIC インフォメーション 投稿記事」
- 必須事項: 住所・氏名・電話番号
- 送信先: jiictokyo@jic-web.co.jp



- お願い: 掲載された記事・写真は JIC 旅行センターのホームページにも転載されます。投稿記事採用の発表はインフォメーションの発送をもって代えさせていただきますが、編集の際当社よりご連絡させていただきます場合がございます。予めご了承ください。

シェアアイシーの
facebook
twitter
を
チェックしよう

JICモスクワ通信 vol.26

ウクライナの「ジブリ・トンネル」

宮崎駿監督のアニメ「となりのトトロ」で、トトロに会うために4歳のメイちゃんが木々のトンネルを通り抜ける場面を覚えている人は多いと思います。

ウクライナのクレヴァン Klevan に、木々に囲まれたトンネルが実際にあることをご存知ですか？

「恋のトンネル」と呼ばれています。



クレヴァンはキエフから西へ約350km離れた小さな村です。年代記に1453年に初めてその名が登場する歴史のある町です。1490年頃に周りが深い堀で囲まれたクレヴァンの城が建てられました。城は度々外敵の

攻撃を受け、現在は城跡しか残っていません。クレヴァン村には、ほかにあまり見学する場所がないにもかかわらず、その幻想的なトンネルは多くの人たちの注目を集めています。トンネルの長さは約2kmで、不思議な自然の産物として認められています。

ウクライナのトンネルはとてもロマンチックで、色々な伝説の発祥の地になっています。

伝説を簡単に紹介すると、次のような話です。

「クレヴァン村にはウクライナのロミオとジュリエットが住んでおり、彼らの家族に二人が結婚することを禁じられた後、ジュリエットは走ってくる電車に飛び込みました。彼女が亡くなった場所にトンネルが出現しました。」

実際には、何十年か前に地元の木材加工工場が木材を運搬するために森の中に線路を引きました。線路の両脇の木々が生き茂り、徐々に絡まってできたのがトンネル

の始まりです。現在、この線路上を1日2回電車が走っています。このトンネルは、カップルが大好きなところで、トンネルの中を歩いている人々をよく見かけることがあります。列車が通るときに、恋人たちが同じ願い事をしてキスすると、それが真心の愛であれば必ず願いごとがかんうと言われていました。

<クレヴァンまでのアクセス>

キエフからリウネ市まで鉄道で行き、リウネ市のバスターションでルーツィク市行きのマルシュルートカ(乗り合い自動車)に乗り、クレヴァン駅で降ります。トンネルはクレヴァン村の中心から7km離れたところにあります。皆さん、機会があれば、ぜひ行ってみてください。もちろん、季節はいつであっても、トンネルはとても素敵ですが、私には夏の緑が一番よかったですね。

チスティリーナ・イリーナ(JICモスクワ)

《映画の紹介》



●2012年12月2日(日)13:00開場/会場:神戸朝日ホール4F

上映日時: 2012年12月02日(日)
13:00 開場 14:00 上映

上映会場: 神戸朝日ホール 4F

チケット代金: 1,000円

前売りチケットについては下記までご連絡ください
問い合わせ先: いりえのほとり

<http://www.irie-hotori.com/cinema.html>

11~1月の予定



- 11月6日~1月20日 マトコケン展覧会(仙台) <http://www.kameimuseum.or.jp/topics/2012/10/post-38.html>
- 11月23日 晩秋に贈るロシア音楽(神戸) <http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/node/1860>
- 11月25日 クラスノヤルスク民族舞踊団
チャリティーコンサート(東京) http://www.kcf.or.jp/tiara/concert_detail_020200300430.html
- 12月2日 小さい逃亡者上映(神戸) <http://www.irie-hotori.com/cinema.html>
- 12月29日~1月6日 年末年始休業
- 2013年1月18日 長期留学4月出発生申し込み締め切り <http://www.jic-web.co.jp/study/stay/long.html>

最新情報は JIC のホームページに随時掲載いたします。
ぜひご確認ください!!!

* * JICのロシア語留学・研修 * *

ロシア語長期留学4月生・募集中

ロシア語グループ&個人研修 (随時募集)

期間：2013年4月より10ヶ月
締切：2013年1月18日(金)

リデン&デンツ スイスの会社出資のロシア語学校

個人・グループレッスン。モスクワとペテルブルグにあり、インターナショナルな雰囲気。初心者より上級者まで。2週間より可能。基本はホームステイ2食付。詳細はパンフレットをご覧ください。



予価です

モスクワ国立大学 579,000 円(授業料 10ヶ月)

サンクト・ペテルブルグ国立大学 585,000 円(授業料 10ヶ月)

ウラジオストク極東連邦大学 314,000 円 (授業料 10ヶ月)

※上記の金額以外に別途、寮費、手配料、渡航費用、ビザ代金及び取得手数料などががかかります。

デルジャーヴィン・インスティトゥート

全ロシアプーシキン博物館の協力によりペテルブルグに設立された学校で、18世紀の建物内で授業が行われます。アットホームな雰囲気でお勧めです。グループレッスン、1週間より可能。基本はホームステイ2食付。詳細はパンフレットをご覧ください。



ロシア語個人研修 (随時募集)

- ☆モスクワ・ダリパス社 1週間~4週間 (ホームステイ3食付)
- ☆モスクワ大学 2週間~長期 (ホームステイ朝食付/大学寮)
- ☆ペテルブルグ大学 1ヶ月~長期 (ホームステイ2食付き)
- ☆ウラジオストク経済サービス大学 1週間~4週間(ホームステイ2食付き)
- ☆ハバロフスク外国語教育センター-GEO(ホームステイ2食付)

◆JIC ロシア留学デスク◆

ロシア留学・旅行のお問合せ・ご相談に応じます。
お気軽にお越しください。

東京事務所 平日 10-18時 03-3355-7294/7295

大阪デスク 平日 10-15時 06-6944-2341

※事前にご予約ください

留学・研修各種パンフレットは JIC へ
ご請求ください。留学・旅行相談お気軽に

~Jクラブ (JIC友の会) のご案内~

JICインフォメーションを年4回、またJICのイベント案内をもれなくお届けします。
ご希望の方には入会案内をお送りいたしますので、ご連絡ください。会費は無料です。
国際親善交流センター

